

令和５年度第１回大津町総合教育会議 会議録

場所 大津町役場３階 会議室３０２ＡＢ

１ 開会及び閉会に関する事項

開 会 令和５年１１月２４日（金） 午前１０時
閉 会 令和５年１１月２４日（金） 午前１１時５５分

２ 出席した構成員の氏名

大津町長	金田 英樹
大津町教育委員会教育長	吉良 智恵美
大津町教育委員会教育長職務代理者	中尾 精一
大津町教育委員会委員	津留 武芳
大津町教育委員会委員	寺下 早苗
大津町教育委員会委員	大村 詠一

３ 構成員及び傍聴人を除く外、会議に出席した者の氏名

総務部長	藤本 聖二
教育委員会教育部長	羽熊 幸治
健康福祉部長	坂本 光成
教育委員会教育部次長	百田 止水
教育委員会教育部学校教育課長	高橋 和秀
教育委員会学校教育課審議員	志賀 裕美
教育委員会教育部学校教育課教育施設課長	津田 三千人
教育委員会教育部生涯学習課長	佐藤 純一
教育委員会教育部生涯学習課課長補佐兼図書館長	矢野 好一
健康福祉部子育て支援課長	伊東 正道
健康福祉部子育て支援課課長補佐兼子育て支援係長	下田 春美
健康福祉部子育て支援課主幹兼入園支援係長	蔵森 史香
健康福祉部子育て支援課審議員兼大津保育園長	村上 小百合
健康福祉部子育て支援課審議員兼大津幼稚園長	坂本 ユミ
総務部総合政策課長	岩下 潤次
教育委員会教育部学校教育課学務係長	桐原 智之
教育委員会教育部学校教育課教育施設係長	尾崎 知宏
総務部総合政策課総合政策係長	蔵森 慎也

４ 傍聴人の有無

あり（１名）

5 協議題を提出した者

- | | |
|------------------------|----------|
| ① 学力向上について | 【学校教育課】 |
| ② 不登校児童生徒について | 【学校教育課】 |
| ③ ICT教育の推進について | 【教育施設課】 |
| ④ おおづ図書館のエンハンス（充実）について | 【生涯学習課】 |
| ⑤ 大津幼稚園民営化途中経過報告について | 【子育て支援課】 |
| ⑥ こども計画策定について | 【子育て支援課】 |

6 質問及び討論

① について

質疑 正答率が40%以下の子どもたちへの対応について、各学校で特色をつけて取り組みを行っている。全国平均と比較した際に点数が取れる子どもと取れない子どもで二極化しているのか、それとも全体的に平均値なのか、分布の傾向などがあれば教えていただきたい。

答弁 学校によって若干異なりますが、全体としましては、正答率が低い学校では二極化するような傾向にあります。

質疑 教育委員会として今後の学力向上の見通しや方向性はあるのか。学力向上について真剣に考えられている保護者も多いので、今後回復する見通しが立っているのか教えていただきたい。

答弁 大津町教育委員会は4月の全国学力学習調査と12月の県学力学習調査によって1年間を2つのサイクルで学力を見ております。昨年4月の調査で学力の低下が見られたため対策を講じた結果、12月の調査では全国平均を上回るような効果があり、回復傾向にあると考えておりました。しかし、今回の全国学力学習調査では再び落ち込みがありましたので、取り組みの反省をしているところです。今年度の組織的な取り組みとしましては、学校をあげて基礎基本を行うことと、地域からの学習ボランティアを組織し直すなど、子どもたちの学習への理解度を高めております。次回の12月の県学力学習調査の結果で、より良い報告ができればと考えております。

意見 ひとりも取り残さない取り組みとして全国的に実施しているが、大津町の各小中学校においても同様に継続した取り組みをお願いしたい。

意見・質疑 基礎基本の洗い出しは繰り返し言われている。洗い出しは教員が行っているので、できない子どもがどこで躓いているのかを丁寧に探してほしい。小学校の問題を解けない中学生もいるが、基本の部分で躓くとその先が全て分からなくなってしまう。基礎基本の洗い出しは、わからない子どもたちから学んでほしい。間違えた問題をノートから消してしまうのではなく「ノー消しゴムデー」など、なぜ間違えたのかを徹底的に考えさせることも良いのではないかと考えている。

答弁 単純な計算だけでなく、読む力も一緒に培っていったところではあります。

質疑 外国から移住してきた子どもたちも同じようにテストを受け、その結果も含まれているのか。

答弁 日本語が理解でき、テストを受けられる子どもは同様に受けていますが、町で用意している翻訳ツールなどを使って学校生活を送っている子どもは対象外になっている

など、実態によります。

質疑 これから外国から移住してくる子どもが増えていきますが、その子どもたちに対応する各学校の体制はどうなっているか。

答弁 県が人事の配置を行っていますが、例えば菊陽町では日本語が習得できていない子どもに対応するため、加配で教員が配置されており、一人ひとりに細かに対応をされています。残念ながら大津町には配置がありませんが、来年度の配置を強く希望しており、加えて現在は各学校で翻訳ツールや学校独自の支援体制に取り組んでいます。

質疑 A I ドリルなどの導入により、どの程度教員の労働時間の削減に繋がったのかと、A I ドリルは多言語対応できるのかを教えてください。多言語対応できるのであれば大津町の魅力にもなるのではないかと。

答弁 働き方改革について、時間外労働は年々減少傾向にあります。しかし、未だ一部の教員に業務の偏りがあったり、月 40～80 時間の残業もあったりするため、時間外労働の削減に引き続き努めます。A I ドリルの多言語対応につきましては、確認したいと思います。

質疑 学力のばらつきについて、学校ごとの特色はあるのか。

答弁 学校ごとにばらつきがあります。教育委員会では全国・県の学力調査など学校別のデータを精査し、細かなデータをもとに各学校で対応しています。落ち込みが大きい原因や対応についての協議は各学校と教育委員会が連携しながら行っています。

答弁 学び残しについての対応が大規模校ほど難しく、落ち込みが大きい。小規模校については回復が見られるところもあり、学校の事情も考えながら対応をお願いしている。

意見・質疑 A I ドリルについて、わからない子どもほどマルバツをつけて終了しているように見られたため、本当に理解ができているのかの確認が必要である。利用が少ない子どもに対する働きかけや、教員がデータを分析して、授業へ反映する仕組みなどにも必要かと考える。点数に対して目標値や、正答率 40%未満の子どもをどこまで減らしていくかなどの目標はあるのか。

答弁 目標値はしっかりと持っています。教育は数字を上げることではありませんが、大切な指標だと思って取り組んでいます。ロイロノートという授業支援アプリを導入して授業改善に取り組んでおり、これまでよりわからない、難しいという声がなくなり、時間の削減にも繋がっています。

② について

質疑 S S W が適切に対応できる人数は一人当たり何名ほどで、現在の大津町では何名の対応が理想なのか教えてください。

答弁 現状、県と繋がっている方もおり、アプローチ中の方は除いて、町 S S W と繋がっている子どもが 5 校 13 名です。適切に対応できる数についてはその対応が様々であり、即答できない状況です。

意見 不登校の子どもへの支援について、民間教育施設との連携を進めていただきたい。教員が不足するなかで難しいかと思うが、良い事例があれば他校にも導入できる。実施していること以外にもできることがないか引き続き検討し、組織的に対応できるものがあれば取り組みを進めていただきたい。

質疑 何か問題があったとき、特に夜間に関連機関や不登校児童の保護者が相談できるような組織は大津町にあるのか。

答弁 県でも一覧を配布されており、24 時間受付可能な窓口があります。

意見・質疑 学校からの案内に拒否感がある家庭であれば、町からの案内に混ぜ込むなどして情報提供を行うなどの連携があると良いのではないか。

答弁 検討します。

質疑 音信不通や支援の拒否をされている家庭の子どもは登校しているか。その家庭に子どもは実際にいるのか。

答弁 音信不通の場合、基本的には登校しておらず、子どもや保護者に会っていない状況です。週 1 回の家庭訪問と届け物を行っていても、実際に会うことが難しい家庭もあります。長期間会えない家庭については子育て支援課との連携を行い、安否確認を行っております。

③ について

意見 成果と課題について、環境の整備は基盤の話であって家庭との連携はしていないと感じる。

質疑 タブレットの更新について、補助対象に教職員分のタブレットは入っているのか。

答弁 補助対象外のため、町の負担になります。

意見・質疑 家庭学習の支援や保護者への働きかけを検討いただきたい。

答弁 インターネット環境がない家庭につきましては、ルーターの貸し出しなど家庭で学習できる環境を整えています。タブレットの使用方法も含めて、より良い家庭学習のやり方を確立していきたいと考えています。

答弁 P T A との意見交換会におきましても、家庭学習について、保護者が支援できることがあれば教えていただきたいとの声もございました。

意見 I C T の活用など、必要なものは積極的に取り入れていただきたい。

④ について

質疑 図書館が変わるとあったが、人材について職員 3 名・司書 14 名の他に、専門的な経験を持った人が必要になってくるのか。

答弁 ボランティア団体にも意見をいただきながら、新しい図書館づくりに活かしていきたいと考えています。

意見・質疑 本を読むことが学力向上に繋がると考えており、学校司書とも情報交換を行いながら小中学生が欲している本の導入をお願いしたい。他自治体でも導入されているような授乳や休憩ができるスペース、コワーキングスペースの導入など、同線の活用などを行っていただきたい。S N S の発信やボランティア活動などで高校生など若い世代の意見を取り入れてはどうか。

答弁 小中学校との連携につきましては毎月情報交換を行っており、意見交換や貸し出し促進を進めています。コワーキングスペースにつきましては、ロビーでの展示を反面利用をお願いしており、自由に使えるロビースペースを確保して読書やパソコンの利用を可能にしております。今月実施している住民アンケートなどで同様の意見があれば

大規模改修に含めていきたいと考えています。授乳室は倉庫にベビーベッドを置いて利用可能としておりますが、給排水機能がないため不便をかけている状況です。SNSの利用につきましては現在検討しており、来月からの町ホームページのリニューアルに合わせて工夫しております。若い世代のボランティア参加を含め、いただいたアドバイスを活用できるよう検討していきます。

質疑 大津町の図書館はどのように変わるのを想定しているか。近隣図書館との話し合いなど連携はあるか。

答弁 菊地管内の図書館とはイベント等での連携を行っています。目指している図書館像は地域の拠点となる施設であり、人が集って憩えて交流し、本や情報を提供することにより地域の皆さんに貢献できる図書館づくりを目指していきます。

⑤ について

質疑 建て替え期間中の運動場利用について、子どもたちが運動できる場所の確保はどうするのか。

答弁 一時的に場所は狭くなってしまいますが、遊具なども活用しながら、なるべく外で遊べるように考えております。子どもたちにとって不利益にならないよう、安全面にも注意しながら、運動できる場所を最大限確保していきます。

⑥ について

質疑なし

⑦ その他について

質疑なし